

第77回国民体育大会

我らかく戦う

期 日 令和4年10月1日(土)～10月11日(火)

会 場 栃木県宇都宮市 他

公益財団法人 北海道スポーツ協会

我らかく戦う

第77回国民体育大会(本会期実施競技)

| 競技名 | 種別 | 評価 | 予想順位 | 戦いの展望 | 有望選手・チーム | 特記事項 |
|-------------|--------|----|------------|---|---|--|
| 陸上競技 | 全種別 | 4 | 個人1位、2位 | 世界選手権入賞者や全国大会入賞者が多数参加するため、天皇杯上位入賞が期待される。 | 成年女子:北口 楳花(日本航空(株)) 少年男子:橋 弘栄(北海道栄高等学校) 少年女子:川村 羽海(北海道幕別清陵高等学校) | 成年女子:北口 楳花(日本航空(株))世界選手権銅メダル、ダイヤモンドリーグ優勝(フィナル出場) 成年男子:高橋 佑輔(北海道ハイテクスリットクラブ)日本選手権4位 成年男子:小野寺 将太(順天堂大学)日本選手権6位 成年女子:小玉 葵水(東海大学)日本選手権6位 成年女子:久保田 亜由(九州共立大学)日本選手権5位 成年女子:御家瀬 緑(住友電気工業(株))日本選手権3位 少年男子:橋 弘栄(北海道栄高等学校)インターハイ2位 少年男子:エケ ジュニア瑠音(北海道栄高等学校)インターハイ3位 少年男子:武藤 優飛(北海道高等学校)インターハイ5位 少年男子:中尾 泰思(北海道栄高等学校)インターハイ7位 少年女子:納村 琉愛(北海道栄高等学校)インターハイ5位 少年女子:川村 羽海(北海道幕別清陵高等学校)インターハイ4位 |
| サッカー | 成年男子 | 3 | 団体8位 | 今年度から社会人、大学生の選抜チームとして北海道の1種年代の強化普及を行うとともに結果も求めていく。 | | |
| | 少年男子 | 2 | 団体5位 | 攻撃的に攻めて勝ちたい。 | 品田 太郎(北海道札幌西陵高等学校) 上ヶ嶋 将也(北海道江別高等学校) 川崎 幹大(札幌市立清田中学校) | |
| | 少年女子 | 3 | 団体8位 | 1回戦がどこになるかにもよるが、いずれにせよ1回戦がキープポイントとなる。 | MF:本多 優良(旭川実業高等学校) MF:牛嶋 心海(北海道文教大学付属高等学校) | |
| テニス | 成年男子 | 3 | 団体8位 | | | |
| | 成年女子 | 3 | 団体8位 | | | |
| | 少年男子 | 3 | 団体8位 | | | 全日本ジュニア出場 |
| | 少年女子 | 3 | 団体8位 | | | インターハイ出場、全日本ジュニア出場 |
| ボート | 成年男女 | 2 | | 準決勝の進出を目指す。 | | |
| | 少年男女 | 3 | | 準決勝の進出を目指す。 | | |
| ホッケー | 成年男子 | 3 | 団体4位 | 対戦相手は、ほとんどが日本リーグで戦っている強豪チームの中で守備を強化して、カウンター攻撃を狙います。 | GK:山崎 元((株)川西水道機器)山梨学院大学の時に優勝メンバー。 FW:小野 拓夢(スターゼン(株))東京農業大学の時に最優秀選手である。 | フィジオ:黒済 憲一((株)日栄舎)、黒済 純也(アルテック(株))兄、黒済 佑太(札幌大学)弟が親子出場。 |
| | 成年女子 | 2 | 団体5位 | 守備の時間が長くなると予想されるので粘り強く守り、攻撃においては速攻により数少ない得点機をものにしたいと考えている。 | | |
| | 少年男子 | 2 | 団体5位 | 四国・九州ブロックとは勝機がある戦いが期待できる。 | FW:吉田 隼斗(北海学園札幌高等学校) GK:山根 暁作(北海学園札幌高等学校) | |
| | 少年女子 | 2 | 団体5位 | どのチームと対戦しても、得点を取れる攻撃ができるようにしていきたいと考える。また、2校の合同のため、選手それぞれの素質を生かしながらわずかな練習期間でチーム力を向上させていきたい。 | | |
| ボクシング | 全種別 | 4 | 個人1位、2位、3位 | 北海道がUJから育ててきた選手が揃い、指導者含め全員が成長を見てきて指導してきている選手団、個人競技では特に大切な対1でのコミュニケーションには不安はなく、それぞれが普段の実力を発揮できると考える。 | 少年男子:荻野 照平(北海道札幌工業高等学校)高校W級 2022インハイ優勝 成年男子:川上 海音(駒澤大学)成年L級 2021大学リーグ優勝[レギュラー] | 成年男子:川上 海音(駒澤大学)、少年男子:川上 真生(札幌創成高等学校)が兄弟出場。 元ロンドンオリンピック選手の鈴木康弘(K&Kボクシングクラブ)の指導の下、切磋琢磨してきた兄弟。 今大会が初2人で団体出場。 |
| バレーボール(6人制) | 成年男子 | 3 | 団体5位 | 組合せ次第では5位入賞を狙える戦力である。チーム一丸となって戦う。 | 工藤 泰我(東海大学札幌校舎) | 東日本インカレベスト16 |
| | 成年女子 | 3 | 団体8位 | 全員で守って全員で攻撃するチーム力で戦っていきます。 | 奥山 優奈(アルテミス北海道) 旭川実業高等学校を卒業後、V1リーグに所属している「NECレッドロケッツ」に入団。V1リーグ経験者としての経験値がチームのレベルアップにつながり、セッターというポジションでコート内でも精神的柱となり勝利に貢献してくれる。 | 2021年度第12回全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会女子東部決勝リーグ山梨大会優勝 |
| | 少年男子 | 3 | 団体4位 | 初戦でチームとしての力を発揮していれば、上位進出も可能。レシーブが安定して戦うことができればどの相手とも勝負ができる。 | 山田 祐輝(東海大学付属札幌高等学校) 二川 颯斗(東海大学付属札幌高等学校) 2名ともレシーブや攻撃に秀でるものがあり、活躍してくれること期待する。 | |
| | 少年女子 | 3 | 団体8位 | 安定したレシーブからの多彩な攻撃でポイントを狙う。OHの天野・本田の決定力が上位進出の鍵となる。 | 天野 恋(札幌山の手高等学校) 本田 花那(札幌山の手高等学校) ポテンシャルが高く、オールラウンドプレイヤーである。 | |
| 体操 | トランポリン | 3 | 個人5位・12位 | 男子:荒谷 穂高(金沢星稜大学)決勝に残ることができる実力が十分に兼ね備えているため、予選でいかに落ち着き安定した演技ができるかが重要である。決勝ではベストスコアを出すことでメダル獲得の可能性を見出せる。 女子:高橋 希星(北海道釧路明輝高等学校)全国上位の選手と比べ、技の難易度大きく差をつけられてしまっているため、持ち味の演技力、美しさでその差を埋めていけるかが決勝進出への鍵となる。 | 男子:荒谷 穂高(金沢星稜大学)星稜クラブ 女子:高橋 希星(北海道釧路明輝高等学校)釧路TCアクティヴ | 男子:荒谷 穂高(金沢星稜大学)2019年全日本インカレAクラスシクロ優勝、2019年ジャパンオープン16位 女子:高橋 希星(北海道釧路明輝高等学校)全日本ジュニア7大会連続出場 男女ともに団体初出場。 荒谷 穂高(金沢星稜大学)は現在トランポリン強豪チームに所属し、めきめきと力をつけている。 高橋 希星(北海道釧路明輝高等学校)は演技の美しさが見どころである。 |

| 競技名 | 種別 | 評価 | 予想順位 | 戦いの展望 | 有望選手・チーム | 特記事項 |
|------------|------|----|-------------------------|--|---|--|
| バスケットボール | 成年男子 | 2 | | チームとしては初めての国体出場。少年、成年男女関係なくバスケットボールの競技レベルを直に拝見できる時間として、選手はもちろんコーチ陣も勉強していきたいと思います。 | 鳴海 貴裕(恵庭市消防本部) CAMELLIA 濱尾 宗純(エフビッドコミュニケーションズ(株)) クラシックラムズ 柴田 京哉(株)北洋銀行) MAYBE | 高松宮杯地域リーグチャンピオンシップ出場(3年連続) |
| | 成年女子 | 3 | 団体5位 | 北海道予選では練習の機会も少なく、目指す早いバスケットボールの完成には到達しないまま臨んだが、ゲームを重ねるごとにチームの一体感と目標への理解が深まりある程度の手応えを掴んだ。今後残された日程で体力とシュート率の向上を目指し、ベストを尽くして戦えるチームとして大会に臨みたい。 | 森岡 ほのか(札幌山の手高等学校) バスケットボール・ウィズアウト・ボーダーズ(BWB)アジア2022選出 | 北翔大学インカレ出場 札幌山の手高等学校2021年ウィンターカップベスト8 森岡 かりん(北翔大学)・森岡 ほのか(札幌山の手高等学校)の姉妹プレー |
| | 少年男子 | 3 | 団体16位 | 前回大会で一回戦敗退した為、それ以上の戦績を残したい。 | 西村 優真(札幌市立南が丘中学校)レバンガ北海道U15 安藤 煌太郎(札幌市立羊丘中学校)レバンガ北海道U15 中学3年生ではあるが、オフェンス、ディフェンスにおいてバランスが取れている。 | |
| | 少年女子 | 3 | 団体16位 | 前回開催された大会では1回戦敗退だった為、それ以上の戦績を残したい。 | 谷口 憂花(札幌山の手高等学校) 広範囲でシュートを決める事の出来る選手である。 | |
| レスリング | 成年男女 | 4 | 個人1位、5位 | 2021世界選手権で清水が3位に入賞しているので世界の戦い方を道民に見せてほしい。 | 成年男子:清水 賢亮(陸上自衛隊) 世界で活躍しているのが優勝を狙えるチャンスがある。 成年男子:米田 侑太(国士舘大学) 2022東日本新人戦で優勝しているので上位に入ると思われる。 | |
| | 少年男子 | 4 | 個人3位、5位 | 3年生の3選手が最後の大会として上位入賞が期待される。また、1年生も小学生よりレスリングをはじめ、全国中学校レスリング大会でも上位入賞者がいるので、国体でも期待できる。 | 岡田 利毅(帯広北高等学校)・菊地 和(帯広北高等学校)の2名の選手は上位入賞が期待できる。 | 少年男子7階級全員帯広北高等学校の選手であり、レスリング競技を小学生から始めており、全国大会でも活躍した選手が多数いる。 |
| セーリング | 全種別 | 2 | 個人3位 | 毎年継続して得点がとれるよう選手団選手8名少数精鋭で入賞を目指します。 | 成年女子:松苗 幸希(北海道セーリング連盟)東京国体 成年女子 SH・SR級3位 成年女子:齊藤 由莉(北海道セーリング連盟)和歌山国体 少年女子 420級1位 | |
| ウエイトリフティング | 全種別 | 4 | 団体7位(女子)個人1位・2位・6位7位・8位 | 成年男子:館森 春輝(中央自動車工業(株))入賞。 少年男子:大崎 柊哉(北海道士別翔雲高等学校)上位入賞。 女子:瀬川 瑠奈(東京国体大学)優勝争い。 3名を筆頭に全員入賞を目指す。 | 少年男子81kg級:大崎 柊哉(北海道士別翔雲高等学校) 女子71kg級:瀬川 瑠奈(東京国際大学) | 少年男子:大崎 柊哉(北海道士別翔雲高等学校)R4インターハイ2位 女子:瀬川 瑠奈(東京国際大学)R3全日本女子選手権2位、R4全日本女子選手権3位 |
| ハンドボール | 成年男子 | 1 | | チームの目標である初戦突破を目指します。 | | |
| | 成年女子 | 3 | | 得意の粘りのあるディフェンスで我慢し、1点ずつ確実に得点を重ねていきたい。格上相手となるのでペースに合わせず、自分たちのできるプレーをし満足のできる結果を残したい。 | 竹林 千穂(函館市立深堀中学校(教))…早いフェイントからの1対1 小田原 海(八雲町立野田生中学校(教))…ピボットプレーがどこまで通用するかが得点の鍵 藤木 円来(認定こども園うみの星保育園)GK…セービングからの速攻にも期待している。 | |
| | 少年男子 | 2 | 団体8位 | 日頃より磨いてきたDF力を発揮し、全員ハンドボールで初戦突破を目指す。 | 浅見 祐士(札幌新陽高等学校) 小学生からハンドボールをはじめ、センタープレーヤーとしてチームの司令塔を担う。 河地 亮(札幌新陽高等学校) 高校からハンドボールをはじめ、大きな体と持ち前のガッツあふれるキーピングでゴールを守る。 | 第45回全国高等学校ハンドボール選抜大会1回戦突破 |
| | 少年女子 | 2 | | どれだけ粘り強いDFをし、少しでも多く速攻で得点できるか。インターハイ出場を逃した札幌支部の2チームがタッグを組んだ潜在能力はここ数年の少年女子では抜けている。一勝をもぎ取りたい。 | 全国レベルにあるバックマン 渋井 真幸(札幌新陽高等学校)・山口 和穂(北海道札幌月寒高等学校) 高確率のシュートを放つ 馬場 雪乃(北海道札幌月寒高等学校)・上野 夏歩(北海道札幌月寒高等学校) ゴールキーパー 横澤 花笑(札幌新陽高等学校)・小林 優季香(北海道札幌月寒高等学校) 上記6名の活躍が期待される。 | 3年前、中学全国大会(JOC:ジュニアオリンピック大会)出場の6名がこの国体チームで再結成した。 |
| 自転車 | 成年男子 | 4 | | | | 西尾 憲人(那須ブルーゼン)全日本自転車ロードレース19位 小堀 敢太(京都産業大学)全日本学生選手権トラック自転車競技大会ケイリン決勝進出 |
| | 少年男子 | 5 | 個人1位 | 今大会は有望選手がおり、好成績が期待できる。 | 中石 湊(函館大谷高等学校) | 中石 湊(函館大谷高等学校) 2021インターハイ1kmタイムトライアル優勝 全国高等学校選抜自転車競技大会1kmタイムトライアル優勝 「アジア選手権トラック2022」1kmタイムトライアル3位、スプリント1位、ケイリン2位となる。 大森監督の教えを乞うために、大阪府より函館大谷高等学校に進学している。 |

| 競技名 | 種別 | 評価 | 予想順位 | 戦いの展望 | 有望選手・チーム | 特記事項 |
|--------|------|----|---|--|--|---|
| ソフトテニス | 成年男子 | 3 | 団体8位 | 内海 大輔(CLOSSTY HOLDINGS)・榊原 健太(宮の森スポーツ倶楽部)ペアを軸に全員が北海道出身のチームワークと若い力でチームに勢いをつけ勝利を掴みたい。 | 内海 大輔・榊原 健太ペア(CROSSTY HOLDINGS・なべ'sチルドレン) 今年度、北海道選手権大会優勝やJAPAN GP2022宮城予選優勝の成績を残しペアとして成熟してきており、活躍が期待出来る。 | |
| | 成年女子 | 3 | 団体8位 | 経験値の少ないメンバーでのチーム構成ですが、エースの熊谷 舞都(北海道文化放送(株))を軸に、若い力を勢いに変えていけば入賞の可能性もある。 | | |
| | 少年男子 | 4 | 団体4位 | 特殊な陣形である、ダブルフォワード戦法で戦う佐藤 奨吾(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校)・岡田 侑也(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校)を中心に活躍が期待される。 | インターハイ団体ベスト4、個人ベスト8佐藤 奨吾(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校)・岡田 侑也(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校)を中心として活躍が期待される。また、とわの森三愛の単独チームであることも期待できる。 | インターハイ団体 ベスト4 インターハイ個人 ベスト8佐藤 奨吾(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校)・岡田 侑也(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校) 岡田 侑也(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校)は昨年度も選考されており期待される選手である。 |
| | 少年女子 | 3 | 団体8位 | 組み合わせにもよるが、少年女子はフルエントリーの年になるので、個々の力を引き出すことができれば、入賞の可能性もてくる。 | | |
| 卓球 | 成年男子 | 4 | 団体5位 | 関東・北海道で活躍している、阿部・国田両選手の若くはワフルなプレーに日本リーグで活躍している能戸大夢選手がリードするバランスの良いチームになりました。全員で点を取りに行く卓球で勝利を目指したいと思います。 | 阿部 悠人(専修大学) レベルの高い関東学生卓球選手権でシングルス・ダブルス優勝しているこの勢いで団体に臨みたいと思います。 | |
| | 成年女子 | 3 | 団体8位 | 成年女子は関東リーグにも出場する大学生2名と早稲田大学出身の実業団選手からなる構成なので、トップ選手との戦い方を理解している選手。 出場チームはどこも強く決して簡単な勝利はできないですし、全員が突出した実力ではないですが、全国レベルの粘り強さを備えている選手たちなので、勝負所で思い切ったプレーで点を狙うことを意識させつつ勝利へ繋げて行きたいと思っています。 | | 鎌田 那美(キャンメディカルシステムズ(株))令和元年度全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)ベスト4 伊藤 佑希子(中央大学)平成28年度全日本ジュニアベスト8 高山 結女子(日本大学)平成30年度インターハイシングルスベスト4 |
| | 少年男子 | 3 | | コロナ禍で2年間で中止となっていた国体ですが、駒大苫小牧と北科大の合同チームとして、お互いのチームの長所を生かして第5位入賞を目指したい。 | 荒井 正明(駒澤大学附属苫小牧高等学校) | 駒澤大学附属苫小牧高等学校インターハイ学校対抗ベスト16 |
| | 少年女子 | 3 | | コロナ禍で2年間で中止となっていた国体ですが、札幌大谷高校2名と中学生の合同チームとして、お互いのチームの長所を生かして第5位入賞を目指したい。 | 松元 花音(留萌市立港南中学校) ジュニアナショナルチーム(15歳以下)に選出されている。また、札幌大谷高校の2名もR4インターハイ女子シングルスでベスト32に入っているため、上位進出が期待できる。 | 札幌大谷高等学校2名が令和4年度インターハイ女子シングルスでベスト32 |
| 軟式野球 | 成年男子 | 3 | | 投手を中心とし守り抜き、少ないチャンスに確実に得点へと結びつけ勝利を目指す。 | 鈴木 駿也((株)六花亭) 元ソフトバンク | |
| 相撲 | 成年男子 | 2 | | 持てる力を存分に発揮し、各々の持ち味を出せば結果もついてくる。 | 杉山 秀人(杉山漁業部) 小さいながらも技が多彩で、型にはまると非常に強い選手。 | 佐藤 勇輝(北広島市役所)と佐藤 友輝(安平町役場)は兄弟 |
| | 少年男子 | 4 | 団体5位 個人5位 | チームバランスも良く、皆が持てる力を発揮できれば上位入賞が十分に期待できる。 | 野坂 朋矢(北海道栄高等学校)、バークル ムクオド(北海道栄高等学校)がポイントゲッター。 全員相撲で上位を目指していく。 | 令和3年度インターハイ団体ベスト32 令和4年度全国高校相撲選抜金沢大会団体3位 |
| 馬術 | 全種別 | 3 | 個人1位(馬場馬術) 個人1位(自由演技) 個人2位(スビハン) 個人3位(大障害) | 今回は成年女子と少年の馬場が欠場となるが、成年男子の馬場でカバーしていきたい。 | 林 伸伍(アイリッシュアラン乗馬学校) | 林 伸伍(アイリッシュアラン乗馬学校)東京オリンピック、デンマーク世界選手権日本代表 本間 駿名(北海道静内高等学校)全日本高校馬術大会において全国優勝 楠木 貴成(ノーザンファーム)連続出場15回 |
| フェンシング | 成年男子 | 4 | 団体8位 | 経験をいかした試合運びで、上位進出を目指す。 | | 森 翔一(星槎国際高等学校(教))ワールドカップ、モスクワグランプリ出場(2018)、第73回国民体育大会サーブル準優勝 小久保 航汰(マニユライフ生命保険(株))アジアジュニア選手権大会団体3位(2011)、全国高校選抜大会(香川県)団体優勝 中島 哲雄(カネシメ高橋水産(株))インカレ団体優勝(2013)、第73回国民体育大会サーブル準優勝 |
| | 少年男子 | 3 | 団体16位 | 若手ならではのフットワークを生かしたダイナミックなフェンシングで上位を目指す。 | | 阿部 磨都(札幌大谷中学校)第7回全国中学生フェンシング選手権大会個人フルレール5位、第8回全国中学生フェンシング選手権大会個人サーブル6位 吉野 光一郎(札幌大谷高等学校)第68回全国高校総合体育大会団体・個人出場 水牧 拓夢(札幌光星高等学校)第68回全国高校総合体育大会個人出場 |
| | 少年女子 | 3 | 団体16位 | 初戦を勝って勢いに乗り、上位進出を目指す。 | | 井下 玲菜(札幌大谷高等学校)第68回全国高等学校総合体育大会団体・個人出場 井下 愛莉(札幌大谷中学校)第8回全国中学生選手権大会個人ベスト16 為永 音音(札幌大谷中学校)第8回全国中学生選手権大会個人出場 井下 愛莉(札幌大谷中学校)第68回全国高校総合体育大会個人出場 |
| 柔道 | 成年男子 | 3 | 団体5位 | 小竹 守(中央大学)が必ず得点を取り、その他は失点をしないようにする展開になると考えている。 | | 小竹 守(中央大学)全日本学生体別ベスト16・全日本学生柔道優勝大会ベスト8 |
| | 女子 | 3 | | | | 後藤 未結(札幌日本大学高等学校)ベスト16 榊原 里梨(北海道高等学校)ベスト16・全中2位 廣島 あおい(札幌山の手の高等学校)ベスト16・全中3位 渡邊 天海(北海道高等学校)ベスト16・全中3位 |
| | 少年男子 | 4 | 団体3位 | 北海道予選で男子団体メンバー5名が全員北海道高校の選手という快挙を成し遂げた。1人1人が全国大会での経験が豊富であり、上位進出を狙いたい。 | 北海道高等学校のエースとして活躍してきた吉田 龍真に期待したい。 | 8月に行われる愛媛インターハイでは北海道高校として団体ベスト8以上を目指している。少年男子メンバーが北海道高校の選手が独占了。 |

| 競技名 | 種別 | 評価 | 予想順位 | 戦いの展望 | 有望選手・チーム | 特記事項 |
|------------|------|----|-------------------------|---|---|---|
| ソフトボール | 成年男子 | 1 | | 力の差は歴然としていますが自分達のプレーをしミスを最小限に抑え、全国のチームに胸を借りる思いで臨みます。 | | |
| | 成年女子 | 2 | 団体5位 | 投手を中心に守備を固め、失点を最小限に抑えつつ、少ないチャンスを確実に得点に結びつけ勝機をうかがう。 | 澤田 花奈(石狩市役所) 投手でもあり、4番を打つ主軸打者でもある二刀流の選手である。 | |
| | 少年男子 | 1 | 団体8位 | 道内3校の生徒でチームを結成しましたが、日頃の練習で培ったチームワークで1勝を目指して頑張ります。 | | |
| | 少年女子 | 2 | 団体5位 | 投手戦になる事を期待している。ミスが重なって出た方が先に崩れると思うので、最後まで気を抜かず戦いたい。 | 佐竹 彩禰(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校) 投手 | |
| バドミントン | 成年男子 | 3 | 団体5位 | シングルの2番手が力が他県と比べて劣る為、ダブルスを落とさないようにしたい。シングルスは若手の為大きなプレッシャーを与えず伸び伸びやってもらいたい。 | 加藤 太基(北海道旅客鉄道(株))今シーズン北海道の試合で無敗、安定感がでてきた。 | |
| | 成年女子 | 3 | 団体9位 | ダブルスの2人はシングルスが出来ないのでダブルスを絶対に勝たないとチームの勝利に繋がらないのでしっかり出だしを大切に粘り強く戦いと思っています。 | 内山 真希(北翔大学)は少年から連続して代表選手になっていて団体慣れがあり、1ポイント取れる選手です。(日本最高峰の大会の出場経験もあるので状況に応じて単複も考える) | 昨年の全日本総合で混合で石澤 未夢(プレントィグローバルリンクス(株))がベスト8 昨年の全日本学生でダブルス内山 真希(北翔大学)がベスト16 内山 真希(北翔大学)は少年から数えるところ3年連続で出場している。(本当てであれば5年連続) |
| | 少年男子 | 3 | 団体5位 | 夏のインターハイで本来の力を発揮することが出来なかった。インターハイが終わり、少し肩の力が抜けたことにより、本来の力を発揮することが出来れば、5位入賞もあると考えている。 | 小島 滉貴(旭川実業高等学校) 最上級生になってからシングルスでは北海道で1度も敗退したことがない。本来の力を出すことが出来れば、全国でも戦える選手である。 | |
| | 少年女子 | 3 | 団体8位 | シングルスで2本とれるチーム作り。 | 土佐 梨緒菜(旭川実業高等学校) | 土佐 梨緒菜(旭川実業高等学校)インターハイベスト8 |
| ライフル射撃 | 全種別 | 3 | 個人4位・6位 7位・8位 | 女子選手に有望な選手が多いため、皇后杯の8位以内入賞を目指す。 | 成年女子:大島 千枝(北海道医療大学) これまで全国大会入賞の経験がないが、めきめきと力をつけており、今回入賞を十分に狙える力を持っている。 | 成年女子:柳 あさこ(医)栄栄会28Clinic)全日本ライフル射撃クラブ対抗選手権大会優勝、茨城団体8位入賞 成年女子:山田 実花(同志社大学)2021年全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会準優勝、2021年JOCジュニアオリンピックカップ4位入賞 成年男子:遠藤弘行(愛重特殊車両サービス(株))、成年男子:遠藤 北斗(札幌国際大学)が親子出場。 山田 実花(同志社大学)・大島 千枝(北海道医療大学) 高校の射撃部同期で非常に仲良く、ライフルとピストルで種目が違えど切磋琢磨しながらそれぞれの種目で努力してきた。高校時代は山田が全国準優勝の実績を持ち名門の同志社大学へ、大島は全国入賞の経験がなく道内の大学へ進学しそれぞれ環境が変わったが、現在大島はめきめきと力をつけ全国入賞できる力を持っていると感じており、今後も更なる飛躍が期待できる。 |
| 剣道 | 成年男子 | 4 | 団体5位 | 最悪でも大将戦で勝負を決めたい。 | 地白 允大(北海道警察) 昨年全日本選手権でベスト8に入っている。 | 先鋒:大塚 泰我(北海道警察)の妹、少年女子大将:大塚 和香那(東海大学付属札幌高等学校)が出場する。 |
| | 成年女子 | 4 | 団体5位 | チームで力を合わせて、入賞を目指す。 | 今野 結芽(北海道警察) | |
| | 少年男子 | 4 | 団体3位 | 先鋒・次鋒で流れを作りリード出来れば、勝利のチャンスはある。 | 先鋒:高橋 育宜(東海大学付属札幌高等学校) 大将:田中 朝陽(札幌日本大学高等学校) 2年連続で代表。 | 東海大学付属札幌高等学校 全国インターハイベスト16 昨年中止となった悔しさを晴らす。 |
| | 少年女子 | 4 | 団体3位 | 数少ないチャンスをものにして、上位進出を狙いたい。 | 能地 琴音(東海大学付属札幌高等学校) 全日本選手権へ出場する。 | 東海大学付属札幌高等学校4名はインターハイ3位。 能地 琴音(東海大学付属札幌高等学校)2年連続出場。 |
| ラグビーフットボール | 成年男子 | 2 | 団体7位 | 今回が初参加の選手が多いので大会の番狂わせを狙っていくような奇抜なプレーを期待したい。 | 竹崎 僚太(ホクレン農業協同組合連合会) 飛騨野 雄輝((株)スタイリード) 神山 達也(国立大学法人旭川医科大学) | |
| | 女子 | 2 | 団体3位 | 入賞を目指す。 | | |
| | 少年男子 | 4 | 団体4位 | 粘り強いディフェンスでロースコアに持ち込み、上位進出を狙いたい。 | 三浦 遼太郎(立命館慶祥高等学校) 高校日本代表候補に選出。 渡辺 真広(函館ラ・サール高等学校) 恵まれた体格、類まれなスピードで、全国的にも注目される選手である | |
| スポーツクライミング | 成年男子 | 4 | リード団体10位 ボルダリング団体8位 | ボルダー、リード共に実力を発揮できれば決勝出場の可能性はある。国体には初出場の2選手の為、今回は腕試しを兼ね、楽しみます。 | | 坂本 大河(北海道山岳連盟) 2021年ボルダリングユース日本選手権ジュニア1位 2022年ボルダリングジャパンカップ23位 |
| | 成年女子 | 1 | リード団体15位 ボルダリング団体15位 | コロナ禍もあり練習にブランクあったので、どこまで以前の力を取り戻しているのか、ミスをしないうメンタルを持って戦ってほしい。 | | 上原子 瞳(グラビティリサーチ札幌)、少年女子:上原子 音羽(札幌大谷高等学校)が姉妹出場。 |
| | 少年男子 | 3 | リード団体15位 ボルダリング団体13位 | ボルダー、リード共に実力を発揮できれば決勝出場の可能性はある。国体には初出場の2選手の為、今回は腕試しを兼ね、楽しみます。 | | 工藤 賢悟(札幌市立幌東中学校)2022年BYCユースB9位、LYCユースB23位 齋藤 玲太(北海道函館西高等学校)2021年BYCユースB33位 |
| | 少年女子 | 2 | リード団体12位 ボルダリング団体12位 | 道外進学のため、このペアは最後になる。久々の団体1クライミングを始めた時のように心から楽しんで登ってほしい。 | | 上原子 音羽(札幌大谷高等学校)、成年女子:上原子 瞳(グラビティリサーチ札幌)が姉妹出場。 |
| カヌー | 全種別 | 3 | 個人6位 個人8位 | スプリント、スラローム・ワイルドウォーター共に初出場選手が多いが、次年度へつながる選手も多いため、今後につながるレースを目標としたい。 | 成年女子:大橋 玲奈((株)NTSロジ) 成年女子:深田 真衣(北海道大学大学院) | 成年女子:大橋 玲奈((株)NTSロジ)2021年度日本カヌー連盟カヌーマラソン日本代表選手 |
| アーチェリー | 全種別 | 2 | 団体6位 個人5位、8位 | 個々の技術は高いため、予選を上位で通過することができれば持ち前の集中力を武器に、上位入賞を狙うことができるだろう。 | 成年男子:大泉 龍晴(近畿大学) 競技会・練習での点数が全国トップレベル 成年女子:中村 美優(オリックス生命保険(株)) 全日本大会での入賞経験多数、元日本代表 | 少年女子:鈴木 悠華(北海道旭川北高等学校)2022年度全国高校総体個人13位 成年女子:中村 美優(オリックス生命保険(株))2021年度全日本室内選手権12位、室内選手権9位 成年男子:大泉 龍晴(近畿大学)2021年度全日本室内選手権9位 成年男子:棚田 歩(ホクレン農業協同組合連合会大阪支店)2015年の少年時代から連続出場 |

| 競技名 | 種別 | 評価 | 予想順位 | 戦いの展望 | 有望選手・チーム | 特記事項 |
|---------|------|----|--------------|--|---|---|
| 空手道 | 全種別 | 3 | 個人5位 | 初出場選手もあり、国体経験の選手も全国大会での実績がほとんどなく苦戦が予想される。 | | |
| 銃剣道 | 成年男子 | 3 | 団体8位 | 大会1日目(10月8日)まずは1回戦初戦をしっかり勝ち抜き、大会2日目の2回戦に繋げる。2回戦は特に集中して勝ち抜き、最終日の3回戦・準々決勝に進む。 | | 平成31年及び令和4年4月に行われた全日本銃剣道優勝大会団体戦(5人制)において、それぞれ3回戦進出。 村上 泰啓(陸上自衛隊留萌駐屯地)、村上 浩隆(陸上自衛隊旭川駐屯地)兄弟出場。国民体育大会少年の部において2連覇達成の経験を持つ。 |
| | 少年男子 | 3 | 団体8位 | 大会1日目(10月8日)初戦(1回戦)をしっかり勝ち抜き、2回戦に繋がる試合を展開する。 | | 令和4年7月に行われた全日本高校生大会団体戦(3人制)において3回戦進出(ベスト16)。 監督:光永 健一(陸上自衛隊美幌駐屯地)、選手:光永 瞬希(北海道北見商業高等学校)が親子出場。 |
| なぎなた | 成年女子 | 4 | | 試合、演技とも力があるので先手でスピードによって勝ちに行きたい。演技は集中してリズムと美しい形を目指す。 | | |
| | 少年女子 | 4 | | 先手で集中して戦うこと。スピードによって戦いたい。 | | |
| ボウリング | 成年男子 | 3 | 団体8位 個人8位 | 厳しい戦いが予想されるが、経験豊富な鈴木 恒有(北海道開発局札幌開発建設部)が勢いのある若手3選手をまとめ上げ、特に短期決戦となる団体戦での爆発に期待し入賞を目指したい。 | | 鈴木 恒有(北海道開発局札幌開発建設部) R4全日本年齢別選手権40歳代の部準優勝 |
| | 少年男子 | 4 | 団体7位 個人6位 | 実績のある紺谷 涼太(北海道帯広南商業高等学校)が若い橋本 旺典(立命館慶祥中学校)を上手にリードしている。 また、橋本 旺典(立命館慶祥中学校)も安定感があるので結果を期待している。 | | 紺谷 涼太(北海道帯広南商業高等学校) 2022年度全日本高校選手権大会6位入賞、茨城国体団体戦優勝 橋本 旺典(立命館慶祥中学校) 2022年度全日本中学選手権大会決勝進出14位 |
| | 少年女子 | 3 | 個人8位 | 競技種目は、団体戦(2人チーム戦)と個人戦となっている。個人戦では、1名が全国大会の実績があり、まずは入賞を目指したい。 団体戦においても集中力を切らさずチームワークをもって、入賞を目指して戦いに臨みたい。 | 番井 琴音(札幌龍谷学園高等学校) 全国大会での入賞経験あり | 番井 琴音(札幌龍谷学園高等学校) 個人戦 2021全日本高校ボウリング選手権大会女子の部3位 2021全日本新人ボウリング選手権大会少年女子の部優勝 2022オールジャパンレディスボウリングトーナメント5位 |
| ゴルフ | 成年男女 | 3 | 団体15位 | 成年男子:コース戦略が鍵。攻守の使い分けでスコアメイクをし、総合力で上位を狙いたい。 女子:島田 紗(東北福祉大学)がチームを引っ張り、鼓舞できればチームが勢いに乗り、上位も可能。 | | 島田 紗(女子)・島田 温太(少年男子)が姉弟出場。 島田 紗(女子)・島田 温太(少年男子)、島田 ゆら(女子)が従兄弟出場。 |
| | 少年男子 | 2 | 団体20位 | | | |
| トライアスロン | 成年男子 | 3 | | 北海道代表としての誇りと意識を高く持ち、入賞を目指してポイントを獲得できるようベストを尽くしてレースに挑みます。 | 古謝 孝明(北海道トライアスロン連合) | |
| | 成年女子 | 3 | | 国体開催に感謝致します。 トレーニングを続けている選手は成果を発揮できる貴重な一戦となりますので、各々がベストパフォーマンスを行い、悔いのないレースを考えています。 | 沢田 愛里(北海道新聞社) トライアスロン歴20年以上、国体でもお馴染みの選手となった。 若い選手に食らいつくレースが見られると思う。 | |